

寄付特典

▶ 累計寄付金額に応じて称号が授与されます

称号と称号別人(件)数

称号		個人	法人・団体
特別栄誉会員	1億円以上のご寄付	31	82
栄誉会員	1,000万円以上のご寄付	111	241
特別貢献会員	500万円以上のご寄付	95	75
功労貢献会員	100万円以上のご寄付	785	231
貢献会員	30万円以上のご寄付	3,558	266
賛助会員	10万円以上のご寄付	4,770	229

▶ 記念プレートを贈呈いたします

特別栄誉会員と栄誉会員の方へ、お名前入りの記念プレートを贈呈させていただきます。



▶ 税法上の優遇措置があります

東京大学へのご寄付には税法上の優遇措置が適用されます。

別途お送りする領収書を控除証明書として確定申告書に添付し、所轄税務署へご提出ください。

▶ 安田講堂に銘板を掲示いたします

30万円以上のご寄付をいただいた方(貢献会員以上)のお名前を刻印した銘板を、長い歴史を有する安田講堂に掲示させていただきます。

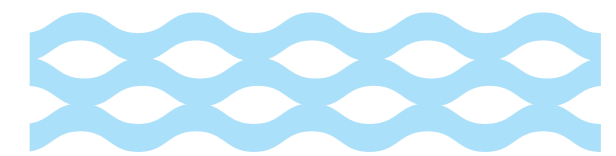


▶ 各種特別イベントへのご招待

年度の累計額が「貢献会員」以上になられた個人の方を翌年度の「活動報告会」にご招待するなど、各種特別イベントをご案内いたします。

東京大学基金 活動報告書

2021



The University of
Tokyo Foundation
Activity Report 2021

申込方法

1. 書面によるお申込み

指定の「払込取扱票」に必要事項をご記入の上、各金融機関窓口よりお振込みください。「払込取扱票」は寄付申込書も兼ねています。振込手数料が必要となる場合は東京大学が負担します。ご不明な点がある場合は、事務局までご連絡ください。

【口座名義】
国立大学法人東京大学

【口座名義カナ】
ダイ)トウキョウダイガク

【口座番号】
三井住友銀行 東京公務部(096) 普通預金 0165539
みずほ銀行 本郷支店(075) 普通預金 2592055
三菱UFJ銀行 本店(001) 普通預金 0634582
りそな銀行 本郷支店(453) 普通預金 1714277
ゆうちょ銀行 00140-8-741661

2. WEBサイトからのお申込み

東京大学基金ホームページから
下記の決済方法でお申込みいただけます。

東京大学基金ホームページ

東大基金
https://utf.u-tokyo.ac.jp

- クレジットカード決済
- インターネットバンキング決済
- コンビニ決済
- 銀行振込決済

寄付申込フォームはこちら→



「UTokyo Compass」が掲げる 新しい大学モデルの実現をめざして

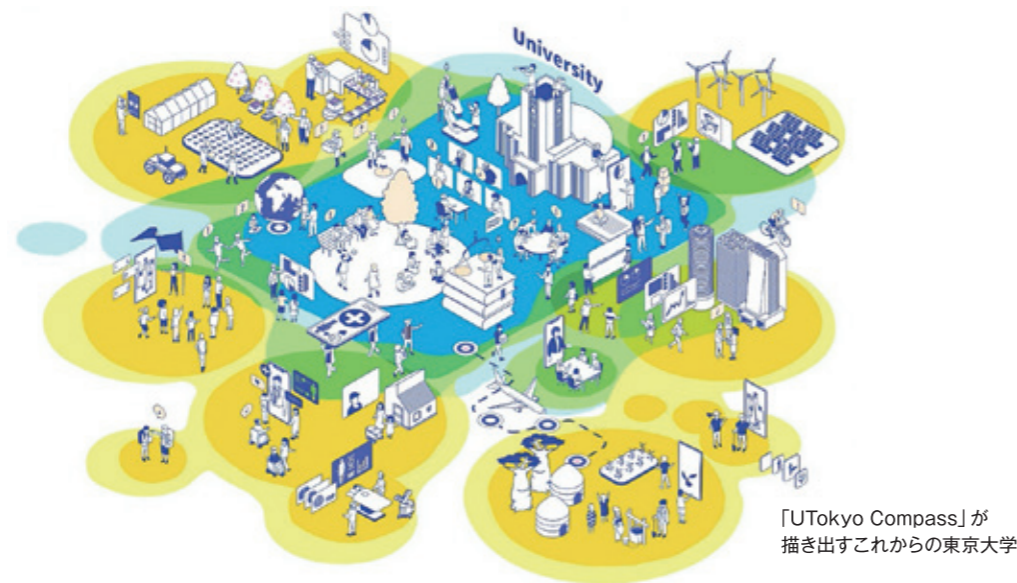
▶ 東京大学基金報告書 総長挨拶

多様性の海へ：対話が創造する未来

現代は新型コロナウイルス感染症や気候変動など、私たち人類社会の目の前に地球規模の課題が突き付けられている時代であると言ってよいと思います。これらに関連して世界の様々な場所で差別や分断が広がり、社会の中で格差の問題や閉塞感が露わになってきています。また、2月の終わりにロシアによるウクライナへの武力侵攻が始まりました。これは深く憂慮すべき事態であり、被害の拡大を防ぐためにも、対話と交渉による早期の平和的解決が強く望まれるものです。この事態を受け、東京大学では、学ぶ場や研究する場を安全に確保することができなくなった学生及び研究者を対象とした特別受入れプログラムを開始し、受入れを進めると同時に緊急支援基金を設立して支援の輪を広げる努力を続けています。

このように、これまで前提としていた諸条件や常識が大きく変化する、しかも年単位で変わっていく現代だからこそ、私たちはアカデミアとして、学術が果たすべき役割をしっかりと意識しつつ、何ができるのかを考え、速やかに行動に移すと同時に、過去から未来に向けて長期を見渡す視野にも立って、新しい社会の構築に取り組みねばならないと考えています。

このような考え方に基づいて、東京大学では、昨年9月にその基本方針であるUTokyo Compass「多様性の海へ：対話が創造する未来」を公表しました。このUTokyo Compassでは「知をきわめる」「人をはぐくむ」「場をつくる」の3つの視点とこれらの基盤となる「自律的で創造的な大学活動のための経営力の確立」の実現のために20の目標を掲げています。



新たな時代における大学の自律性・創造性の在り方は、既存の手本(モデル)としてどこかにあるものではなく、いままきに向かい合う困難を克服しようとするなかでの課題であり、立ち上げるべき理想です。UTokyo Compassが提示するのは、これまでの大学の在り方を設計しなおすことも厭わない創造的な挑戦であり、また大学を取り巻く社会への問いかけでもあります。

この東京大学の新しい在り方を開拓するにあたり、重要な行動の一つが「対話」です。対話ということ、気軽なおしゃべりや情報交換ということもあるかもしれませんが、ここで大事にしたい対話とは、未知なるものと向かい合い、知ろうとする実践です。これを通じて互いに問いを共有し、共に問う、考える中で、深い共感的理解にもとづく信頼の構築を目指します。東京大学は、学知を生み出す場所として、大学と社会の間で、さらには国際社会の中で、対話を通じて立場や価値観が異なる様々な人と人、あるいは組織と組織を繋いでいく役割を果たしたいと考えています。それによって学外の様々な人や組織の皆様と、人類が直面する地球規模の課題に共に向き合い、あるべき未来像を協創していくことが可能になります。

こうした理念に基づく活動の推進を支え、世界の誰もが来なくなる魅力ある大学を創り上げていくためには、国の財政状況や制度の変化に左右されない安定した財源を確保することが必要不可欠です。ご支援いただく寄付は単なる資金面で

のご協力にとどまらない皆様それぞれからのご期待、そして皆様との対話から生まれる力強い後押しとして本学の経営基盤強化の大きな原動力になっています。

特に、用途を本学に「一任」いただくご寄付は、東京大学基金のコアとして積み立てられ、その運用益を奨学金の充実、教育・研究支援、キャンパス環境整備、その他対応が急がれるプロジェクト等に活用させていただきます。このようなご寄付は、時の状況に左右されることのない未来を見据えた様々な先行投資や、世界の公共性に奉仕する総合大学として貢献しうる課題の解決に向け、大胆で機動的なアクションをも可能にする大変貴重な財源となります。

東京大学がこの先のあるべき未来像を皆様との対話を通じて共有し、自律的で創造的な活動を続けていくために、これからも力強いご支援をお寄せくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

第31代東京大学総長

藤井輝夫



〈寄付の実績〉

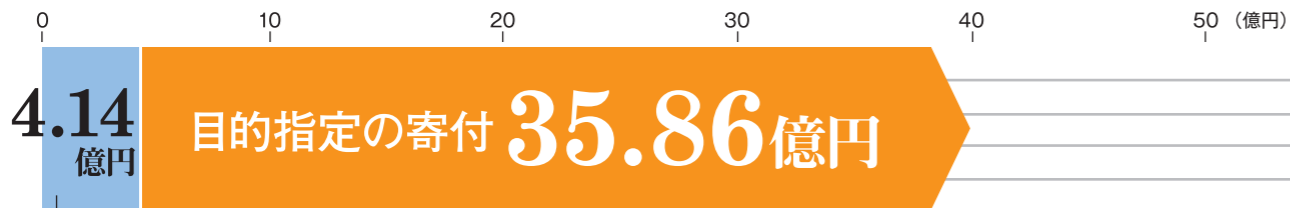
2021年度の東京大学基金申込総額は

40億円

※前年度以前の申込額を含めた2021年度入金額は43.82億円

東京大学基金2021年度の寄付金活動は、皆様からの温かいご支援により、総額40億円(申込総額)に達しました。東京大学基金に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様のご寄付は「東京大学基金」の柱として積み立て、運用原資として活用させていただくとともに、寄付の目的に沿ってそれぞれの事業の支援に充てております。

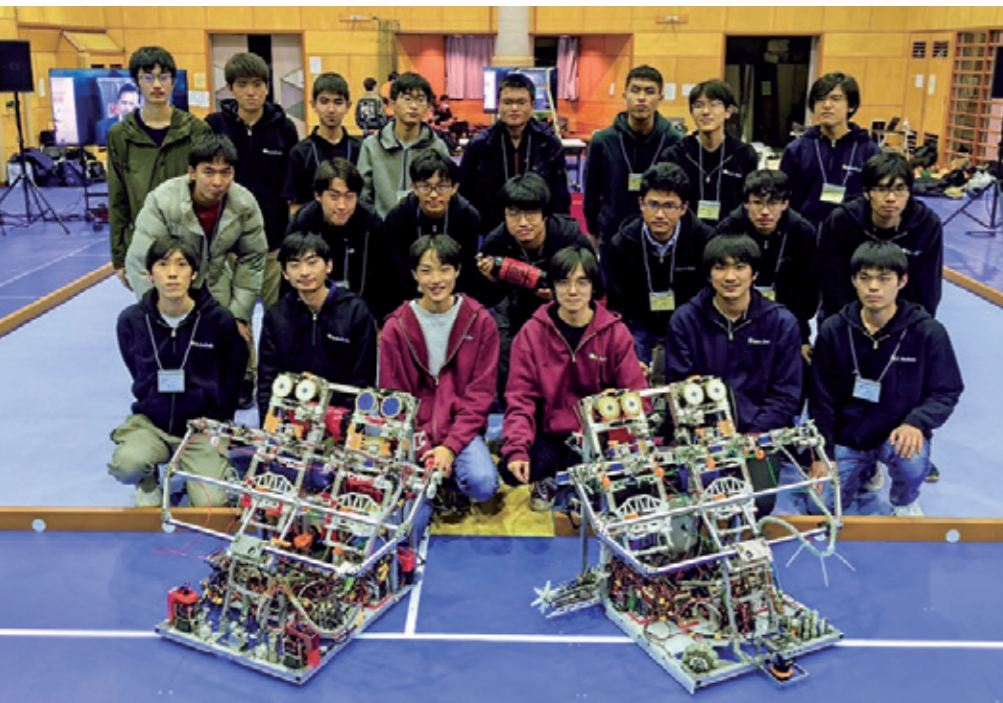


用途を一任いただいた寄付 東京大学全体の貢献に活用

主なプロジェクト(金額は概算)



詳しい内訳はP.21~22をご覧ください。



【RoboTech支援基金】
ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト(2021年12月12日オンライン開催)



【グッゲンハイム美術館ビルバオ展示支援基金】 模型製作風景



【日本発アインシュタイン:カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)】
アルメニア共和国大統領による視察(2021年7月)



【大型低温重力波望遠鏡(KAGRA)プロジェクト】 KAGRA改良の様子



【Life in Greenプロジェクト】
小石川植物園ではLife in Greenプロジェクトへの寄付者の方を招待したお花見を開催(2022年3月)



【ヨット部支援基金】 関東インカレ出場(2021年10月)

東大と海

ウミガメやクジラ、ウミドリ等の生態調査を進めています！

▶ バイオロギング支援基金

コロナ禍で様々な活動が滞りがちな中で、岩手県をはじめ、国内各所における野外調査を遂行することができました。海外においても、研究室から旅立っていった博士研究員がフランス留学中にインド洋に浮かぶエウロパ島へ赴き、グンカンドリの調査を行うことができました。野外調査の結果は、現在大学院生たちがとりまとめています。コロナ禍の収束がなかなか見えてこない状況ではありますが、来年度の各種野外調査も着実に実行できるよう、準備を着々と進めています。



寄付者の方に命名していただいた
モニタリング用ウミガメ



アフリカのエウロパ島にて調査した
グンカンドリ



野外調査の様子

海洋研究や学習を通じた地域おこしの拠点に

▶ 沿岸センター活動支援プロジェクト

2021年4月18日に新しい展示・研究施設「おおつち海の勉強室」がオープンしました。これを機に、大槌町の商工会議所や観光交流協会から、本施設や国際沿岸海洋研究センター(大気海洋研究所)を核とした地域おこしに関する相談が増えてきました。

また、岩手県沿岸振興局と共同で実施した「三陸マリンカレッジ」が好評で、地域からの強い要望を受けて、2021年8月31日に岩手県水産技術センター、釜石海上保安部および岩手大学と共同でサマースクールを開催しました。皆様からのご寄付は、主に「おおつち海の勉強室」の整備費用の一部として活用いたしました。具体的には標本展示室内のパネル作成用の事務用品類、液浸生物標本ケース、様々な海の専門書を集めた「海の本棚」に収蔵する書籍類および大槌町のササキプラスチック(株)との共同による「大槌湾から見つかった新種・オオヨツハマガニ」の模型製作費等です。



「おおつち海の勉強室」での見学会の様子

教育棟展示室・実習室の整備が進みました

▶ マリン・フロンティア・サイエンス・プロジェクト

皆様からのご寄付は、教育棟展示室整備に係る費用やプロジェクト運営のために大切に活用させていただきました。

コロナ禍以前では、国際合同臨海実習の実施、また実習での講師招聘、三崎談話会での演者の招聘等を行い、学生や研究者の交流のために寄付金を利用させていただいておりましたが、2021年はこれらの活動がコロナ禍の影響で大きく制限を受けました。

コロナ収束後にこれらの活動をより一層活気あるものとして再開すべく、実習室や展示室の整備を行いました。特に、一般公開を予定している教育棟展示室「海のショーケース」は展示物等がより充実してきており、いつでも公開できるような状況です。

臨海実験所は、京急電鉄、三浦市、真珠プロジェクトを介した地元の高等学校とも連携を推進しています。更に、京急油壺温泉キャンプパークの水槽展示への協力、八景島シーパラダイスとの連携協定の締結も進めており、これらを介して、多くの皆様に三崎臨海実験所の存在と活動に興味を



動物学臨海実習：教育棟での実習風景

持っていただきたく思っています。また、教育棟展示室「海のショーケース」の内装およびコンテンツ作りに、ご寄付の一部を活用し、充実したものとして、一般公開し、海洋教育全般に役立てていきたいと思っております。

フィールドワークで貴重な経験を積みました

▶ 高度国際海洋人材育成基金 FSI

2021年は必修科目「海洋問題演習」において、海洋ごみ・プラスチック問題、海洋再生可能エネルギー、マリンバイオセキュリティ、食料安全保障問題の4つのテーマに分かれ、自治体や関連団体のご協力のもとでフィールドワークを実施しました。コロナ禍ではありましたが、感染対策を徹底した上でそれぞれのチームが現場に足を運び、海洋に関わる現代課題について当事者たちの声を聞くなど座学では得難い経験を積むことができました。

皆様からのご寄付は、プログラムの主たる活動である国際機関へのインターンシップと、必修科目「海洋問題演習」で実施するフィールドワーク活動費に活用いたします。

FSI …未来社会協創基金(FSI基金)の事業です。FSI基金の詳細はP.10をご覧ください。



フィールドワークにて、魚類検査の見学と
養殖・魚病検査について意見交換を行いました

ご寄付が東大の研究を支えています！

スーパー酵母の研究を着実に進めています

▶「スーパー酵母2020」プロジェクト

2021年は前年から引き続きコロナ禍により活動が大きく制限されていましたが、感染対策をしっかりとらえて日々の研究活動を進め、また、可能な限りで3つの研究室が集まって情報交換も継続して行っていました。その結果、論文や学会での発表を複数行うことができました。特に、論文発表した内容は、共同研究の成果であり、その成果は酵母関連の学会でも高く評価されて学生発表賞優秀賞を受賞しました。

そのほかにも、AI細胞選抜装置を用いて2種類の酵母細胞株の分取にも成功し、また、装置性能向上基礎技術開発にも成功し、それらの結果は学会で発表できました。さらに、スーパー酵母を用いた食品の実現に向けて、企業との共同研究を始めました。

このような最先端のプロジェクトを進めるためには多額の資金が必要です。一方で、大学の研究室に割り振られる研究費は毎年減少しています。そのような状況下でありながら本プロジェクトを続けられているのは、皆様のご支援のおかげです。



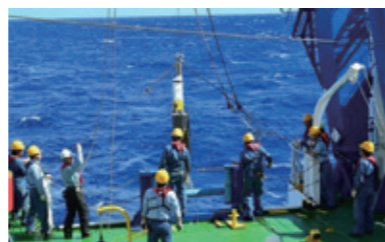
学生発表賞優秀賞を受賞した合田研究室博士課程学生の中川悠太氏

国産レアアースの商業化に向けた研究開発を精力的に進めています

▶南鳥島レアアース泥を開発して日本の未来を拓く

「レアアース泥開発推進コンソーシアム」の第7年度活動報告会を開催し、南鳥島レアアース泥に関する研究開発の最新の成果を報告しました。本活動報告会では、本コンソーシアムで検討した最新の経済性評価結果を報告し、南鳥島レアアース泥開発の経済性が十分にあることを明らかにしました。そして、南鳥島EEZ内には2,500km²の有望海域に1,600万トンものレアアース資源が確認されていますが、これを加えると、日本は世界第4位の「レアアース大国」となることも分かりました。

さらに、昨今の米中両国の貿易戦争を背景に、戦略物質であるレアアースの重要性が大きくクローズアップされています。また、2021年12月には、これまで鉱業権の対象外となっていたレアアースを鉱業法に組み込み、南鳥島レアアース泥の権益保護や実開発を可能とする取り組みも開始されるなど、世の中の流れもレアアース泥開発の商業化に向けて着々と進みつつあります。我々が目指す「採掘」から「ものづくり」までの一連のサプライチェーン構築を完成させるため、引き続き皆様の力強いご支援をお願いいたします。



ピストンコアラ（筒状の金属製採泥装置）を用いた泥試料採取

誰もが過ごしやすいキャンパスをつくるために

インクルーシブ・キャンパスの実現に向けて前進

▶障害のある学生や研究者の活躍応援基金

建物や設備等の物的環境を改善するために、車椅子でも利用できる流し台や緊急用シャワー、車椅子利用者が自分で操作できる階段昇降機を開発するとともに、聴覚障害のある学生や研究者が置き去りにされない授業や会議を実現するために、手話通訳や文字通訳をリアルタイムで効果的に配信できる専用スタジオを、障害のある研究者の監修のもとでデザインしました。

インクルーシブ・キャンパスを実現するためには、障害のない構成員の意識や行動を変革する必要もあります。私たちは、無意識のバイアス解消や少数派への配慮に関わる意識改革や行動変容を推進する教職員研修プログラムとして、バリアフリー支援室、相談支援研究開発センター、ハラスメント相談所、GFD (Global Faculty Development部門)、大学総合教育研究センターと協力し、ジェンダー、LGBT、エスニシティ、障害の領域をまたぐダイバーシティおよびインクルージョンに関する全学FD・SDプログラムを開発中です。

これらの様々な活動において、皆様からのご寄付が大きな支えとなりました。温かいご支援に改めて御礼申し上げます。



熊谷准教授(左)と研究パートナーの並木准教授



手話通訳や文字通訳をリアルタイムで効果的に配信できる専用スタジオ

大閲覧室の大机の修復を行いました

▶東京大学附属図書館支援プロジェクト

東京大学附属図書館支援プロジェクトは、新しい時代の要請に応え、図書館機能を高度化し広く学内外で活用していただくこと、貴重な学術資料を保存し次世代に継承していくことを目的としたプロジェクトです。

ご寄付を活用し、3階の大閲覧室に設置している大机の修復を行いました。この大机は、90年以上も前から使用され、東京大学の学びを支えてきた存在です。次の時代もこの大机を使用していくため、デスクライトのLED化と電源コンセントの設置を行いました。大机の修復は一度に実施できる台数が限られており、少しずつ行っています。引き続き、世界水準の教育・研究を支えるためにご寄付を活用していきますので、温かいご支援をお願いいたします。



修復前の大机



修復により見栄えも機能性も改善しました

次世代の人材を育てる

オンラインで数多くのプログラムを実施

▶ 歴史家ワークショップ支援基金 FSI

歴史家ワークショップはユニークでシームレスな支援を通じて歴史学研究者の研究能力と発信力を高め、国際的にも評価される高度な研究成果を社会に還元することを目指し、①国際発信力強化、②知識共有・ピアサポート、③社会との成果共有を3つの柱として、数多くのプログラムを実施しています。

2021年度はオンラインでリサーチ・ショウケース、多言語論文執筆セミナー、英文校閲ワークショップ、特別セミナー等を開催しました。英文校閲ワークショップ参加者の論文が国際的トップジャーナルに掲載されるという一定の成果も出ています。

また、オンラインイベント「配信時代のアウトリーチ」では気鋭の研究者かつ人気ユーチューバー2名を講師に迎え、研究者によるアウトリーチの可能性についてお聴きしました。

皆様からのご寄付は、これから実施される同様のプログラムに、大切に使用させていただきます。引き続き、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

実学研修や対話型セミナーで学びを深めました

▶ One Earth Guardians (地球医) 育成プログラム支援基金

実学研修(インターンシップ)は10件を実施しました。活動終了後の報告会はオンラインで開催しましたが、地方から駆けつけてくださる研修先企業の方もいっしょに、報告者の学生と直接議論の機会を持つこともできました。持続可能な畜産をテーマとする活動が行われた一方で、新しいタンパク質供給源として培養肉生産に着目する活動も報告されるなど、課題に対する多面的なアプローチを考える機会にもなりました。

また、学生と社会人が交わり、多様な年齢、バックグラウンドの参加者がありたい未来を思い描いてディスカッションを交わすOne Earthology Seminarでは、食のパーソナライズ化と家族で囲む食卓はいかに両立されるのか、ヒトを含めたあらゆる生き物にとっての豊かな暮らしとは何なのかなど、SFプロトタイプの手法も取り入れながら想像力をもって議論を交わすとともに、翻っていま私たちが何をすべきなのかを考える対話を行いました。

さらに、個別の企業・団体等と共に特定のテーマに取り組む協働企画も複数実施し、OEGs受講生が事業提案を考えるワークショップを開催するなど、様々な活動を展開しています。



「配信時代のアウトリーチ」
(2021年9月25日配信)



OEGs受講生が事業提案を考えるワークショップ

未来社会協創基金(FSI基金)

東京大学は2017年7月に「未来社会協創推進本部」を立ち上げました。その目的は、東京大学憲章に示した「世界の公共性に奉仕する大学」としての使命を踏まえ、地球と人類社会の未来に向けた協創を効果的に推進することです。2018年度には、未来社会協創推進本部が主導する未来社会協創事業(FSI事業)の取り組みを支え、その目標を実現するための基金として「未来社会協創基金(FSI基金)」を設立しました。FSI基金はご寄付くださった皆様のご意向を反映させつつ、未来社会協創の最重要プロジェクトの中から東京大学が総合的に判断して充当させていただきます。FSI基金の中から、戦略的な事業のスタートアップ経費の支援として予算を配分し、2021年度中に東京大学基金で寄付募集を開始したプロジェクトを紹介します。人類社会に貢献する「未来社会協創事業」にご賛同いただき、更なるご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

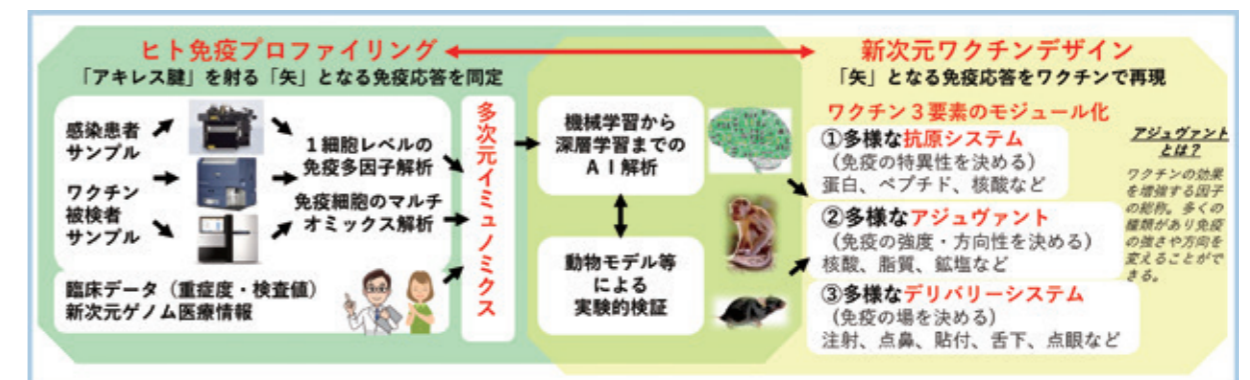
病原体の「アキレス腱」に矢を射るワクチンをデザイン

▶ 近未来ワクチンデザインプロジェクト FSI

ワクチンを構成する要素は、①生体に免疫応答を引き起こす「抗原」、②免疫応答の起きる場所をコントロールする「デリバリーシステム」、③有効成分の作用を補助・増強する「アジュヴァント」です。これらの3要素を「モジュール化(全体の設計を標準化し、構成する各モジュールの交換・組換によって全体の機能を変更できるようにすること)」し、効率的にワクチンを設計する技術の開発を目指します。

さらに、感染患者やワクチン被験者のサンプルから得られるデータに臨床情報やゲノム情報を掛け合わせ、ヒト

免疫の多次元かつ詳細なプロファイリングを行います。プロファイリングにより手に入れたデータのAI解析、動物モデルによる検証を行うことで、ワクチンを構成する3要素の最適な組み合わせを導き出し、病原体の「アキレス腱」を射抜くワクチンを迅速に設計するのが「近未来ワクチンデザイン」です。本プロジェクトでは、次のパンデミックが起きたとき迅速なワクチン研究開発・供給に向けて活躍するワクチンデザイン人材を、On the job training (OJT)により育成いたします。



近未来ワクチンデザインのイメージ

大切なご寄付を未来へつなぐために

これまで東京大学では様々なプロジェクトに皆様からのご支援を賜りました。その中で、今般募集を終了した3つのプロジェクトについてご報告します。

下賀茂寮の大切な資産を引き継ぐ

▶ 下賀茂寮開寮50周年支援基金

下賀茂寮は残念ながら2019年度をもちまして廃寮となりましたが、2020年4月1日から農学生命科学研究科の「樹芸研究所下賀茂寮宿泊施設」として運営することになりました。大切な資産を引き継ぐからには、この下賀茂寮宿泊施設を東大生に素晴らしい教育を提供する場として最大限に活用してまいりたいという覚悟です。

皆様にご支援いただいた下賀茂寮開寮50周年支援基金の残額157万円は、現在、農学生命科学研究科が所管する「東京大学の森」育成資金に振り替えたのち、樹芸研究所への通常の寄付金とは別枠として管理しております。この基金を下賀茂寮宿泊施設の管理運営に計画的に活用することをご了承いただきたくお願い申し上げます。

今後も旧寮関係各位からお気持ちをお寄せいただけるように運営してまいります。



下賀茂寮に集まるOBや学生たち(2011年当時)

AIM研究のために、東大基金にご寄付をお寄せくださった皆様へ

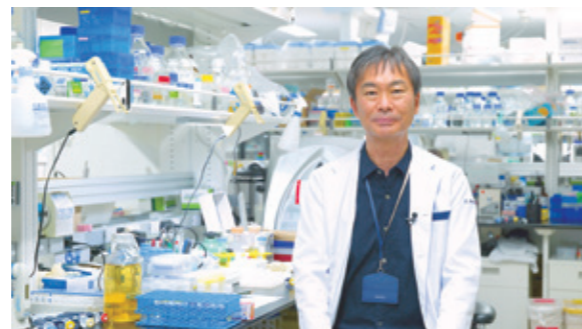
▶ 宮崎徹教授の猫の腎臓病治療薬研究

〈宮崎徹博士からのメッセージ(一部抜粋)〉

2021年度に、東大基金を通し、私たちのAIM研究のために多大なご寄付(寄付金総額276,548,991円)をいただきましたことに、改めて心から御礼を申し上げます。

猫用と人間用のAIM薬の開発を加速すべく、私たちは一般社団法人AIM医学研究所(IAM)を発足いたしました。お陰様で東大からの研究室移転作業は問題なく予定通りに終了し、ほぼ中断することなくIAMで研究を再開しております。

猫用AIM薬を先行して完成することはIAM発足の最大の目的の一つですが、これまでの猫用AIMのデザインをさらに最適化し、その試作品を用いて共同研究を開始しております。これは、治験に向けての学術研究ですが、最終的な治験薬と治験のデザインを決定するための重要な研究です。またこれらの研究段階で



宮崎徹博士(2022年5月31日撮影)

得た成果は、猫用AIM薬だけではなく人間用のAIM薬の開発のために極めて重要なものとなります。IAM研究員一同、一日も早く完成できるよう研究に尽力しております。今後ともIAMを応援のほど、よろしくお願いたします。

一般社団法人AIM医学研究所(IAM) 代表理事・所長 宮崎徹

「ROCKET」から新プロジェクト「LEARN」へパワーアップ

▶ 異才発掘プロジェクトROCKET基金

2014年から異才発掘プロジェクトROCKETを展開し、不登校など学校に馴染めない子どもの新しい学びのあり方を社会に発信してきました。この期間、不登校に対する社会の見方は大きく変化し、彼らが学ぶ場も充実してきました。また、ユニークな才能についても注目されることが多くなり、様々な支援プログラムが生まれています。「突き抜けた」「才能のある」「能動的で」「志のある」子どもに関しては異才発掘プロジェクトROCKETを通して救われた部分もあったと思います。多くの方々からROCKETへのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

教育では短期的な効果が成果として見えにくい部分もありますが、事業を継続していくことにより、社会の中にも多様な軸で活躍していく人材を輩出していくことができると考えております。中邑研究室では、ROCKETの考え方をさらにパワーアップし、新たなプロジェクト「LEARN」を立ち上げました。こちらのプロジェクトにも温かいご支援を賜りますようお願いいたします。



サマープログラムの様子

このプロジェクトに引き継がれます

これからの社会を生き抜くための学びを子どもたちに提供したい

▶ LEARN基金

急激に変容する社会、その流れの中で生まれる貧困・犯罪・引きこもりなどの社会問題。

その根底には、社会の学力を重視する能力観とそれを支える一斉指導をベースにする学校教育や受験教育があると考えられます。コミュニケーショントラブル、学習の遅れ、自信低下、無気力、ゲーム中毒など不適応を起こした子どもたちの支援は容易ではありません。同時に、一見、現在の社会システムに適応したかのように見える子どもたちの能力も、グローバル化する社会の中で生き抜く遅れさが欠け、環境が変われば同じように不適応を起こす可能性が高いと思われます。

教科書や目的がなくても学べる中で自信を取り戻す場、成績に関係なく申請ができるスカラシップ、文字の学びだけでは得られない知識に気づく場、突き抜けた興味関心のある仲間と会



える学びの場、それがLEARN。これからの社会を生き抜く上で、重要な学びを学校を離れて学ぶ場を東大、先端科学技術センター・中邑研究室が提供します。その教育実践を通しての新しい学びをLEARN基金に寄せられるご支援を活用して東大から社会に発信します。

コロナ禍でも歩みを進めました

世界大会でGold評価を獲得しました

▶ iGEM UTokyo

iGEM UTokyoは2021年、「酵母菌を用いた傷口の状態をモニターしてくれる創傷被覆材(絆創膏)」の作成をプロジェクトテーマとして、実験・研究活動に取り組みました。「合成生物学」の世界大会であるiGEMに出場するのは5年ぶりであり、経験のあるメンバーがいない中での活動は全てにおいて手探りの連続でした。さらにコロナ禍で、実験以外の活動はほぼ全てオンラインで行われたことにより、チームとして一体感を持つことや全体での情報共有が難しく、道程をより一層厳しくさせました。

そのような中でも、メンバー一人一人が各自の仕事をきちんとやり抜いたことで、大会本番までに必要なリサーチや実験を完了させることができました。その結果、11月に行われたiGEM本大会において、UTokyoチームは目標としていたGold評価を獲得することができました。

チーム活動において様々な困難があった中、実質的に初年度でGoldという目標を達成できたことは、2022年以降の活動に向けた大きな励みになるものでした。この結果はご寄付いただいた皆様の支援がなくては成し得なかったものであり、改めて御礼申し上げます。



iGEM UTokyo 2021年メンバー

コロナ禍でも練習の質を保ち、大会では好成績を残しました

▶ 空手部支援基金

2021年度の練習は従来通りのスケジュールで行えたものの、コロナ禍で合宿などの行事はすべて中止を余儀なくされました。さらに、練習の目標となる大会が目前にして無くなるなど、依然として練習のモチベーションが個々の精神力に委ねられる状況に置かれました。しかし、その中でも東京大学空手部は練習の質を落とさず、自己目標の設定とその達成を積み重ねました。

全国国公立大学空手道選手権大会では、男子組手準優勝、女子組手準優勝と好成績を残しました。そこで勢いを付け、4年生の引退試合となる七帝戦では旧帝大を席卷し、男子は優勝を勝ち取りました。また、4年生引退後、レギュラー総入れ替えという不安を抱えつつも臨んだ東京地区国公立大学体育大会空手道大会では男子団体組手で優勝し、個人組手・形でも多数の受賞者を出すなど、依然として東大空手部の存在はアピールできました。皆様からのご寄付は、遠征旅費、送風機レンタル料等に大切に活用しました。



東京地区国公立大学体育大会空手道大会 (2021年12月12日)

新艇「大志」とともに掴んだ、全日本大学選手権入賞

▶ 漕艇部支援基金

ボート競技全日本大学選手権に出場し、エイト(8人で漕ぐ種目)において6位に入賞しました。漕艇部からはエイトを含む4クルーが出場し、今回エイトにて入賞した主力選手の艇「大志」は、2,000m 6分1秒漕破の記録(国内一流クルーの基準である6分の壁に迫る)を打ち出しました。

エイト種目での本学漕艇部の入賞は2015年の7位以来6年ぶりであり、さらに2004年以来17年ぶりに国公立大学中トップでの入賞となりました。

艇「大志」で入賞できたことで、ご寄付いただいた皆様の部への応援の気持ちに、早速華々しく応える形となりました。

2021年度は「常識の更新」というスローガンの下、乗艇練習、筋カトレニング、新人勧誘にいたるまで様々な新しい取り組みを行ってきました。こうした取り組みに加え、高い性能を誇る艇「大志」の力を借りて、6年ぶりにエイト入賞という結果を残すことができました。しかし、メダルを獲得するには6秒以上の記録短縮が必要です。来年度、さらに上を目指せるよう全力で取り組んでいきます。引き続き、ご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。



ボート競技全日本大学選手権 (2021年10月27日~31日)

リーグでの昇格を目標に日々練習に励んでいます

▶ 庭球部支援基金

関東大学テニスリーグでの昇格を最大の目標に掲げて日々練習に励んでいます。2021年は双青戦や七帝戦、関東大学テニスリーグなどが中止となりましたが、2021年度関東学生テニス選手権大会(10月)で男子ダブルスおよび女子ダブルスで1組ずつ二次予選決勝に進出しました。庭球部の本拠地である東京大学農学部の特設コート4面は、2010年に砂入り人工芝(オムニ)化され、2013年には赤門テニスクラブの寄付により第2面、第3面の2面に夜間照明設備が設置されました。オムニコートの寿命は6~7年程度、夜間照明電球の寿命は10年程度とされており、それぞれこの年数が経過した後にコート改修・補修、電球交換が必要となり、またコートをできるだけ耐用させる為



4年生引退式の様子 (2021年9月24日)

の砂の補充等、維持費も相当額が掛かります。本基金は、皆様からのご寄付を上記の費用に充当し、幅広く庭球部を支援していきたいとの趣旨で設立されたものです。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

若い歴史研究者たちが輝く場をつくるために



〈歴史家ワークショップ支援基金〉

山本 浩司 准教授

経済学研究科
専門分野: 経済史・経営史・近世イギリス史
(肩書きはインタビュー当時(2022年1月)のもので)

〈インタビュー抜粋〉

歴史学は、ただ昔のことを調査するだけの学問だと思われるかもしれませんが。ですが「温故知新」という言葉のとおり、あらゆる物事の過去や背景を知ることで、今の社会が直面している課題の解決策が見えてくることが多いのです。また、自分が属する社会とは時代も事情も異なる社会について知ることは、他者を理解し、寛容性を育み、自分自身を見つめ直すきっかけにもなるはず。

そうした可能性を持つ歴史学ですが、ご多分に漏れず研究者数が減少しており、以前のように活発な大学内での知識の共有やネットワークの構築ができなくなりつつあります。若手歴史研究者たちと議論する中で、研究者同士の交流と、研究者を目指す人たちの応援する仕組みとプラットフォームが必要だという結論に至りました。そこで2016年春に、数人の研究者とともに、「歴史家ワークショップ」を立ち上げることにしたのです。「まずは研究者や研究

者を目指している人が『あったらいいな』と思うことをやってみよう」。それが歴史家ワークショップのスタートラインでした。

現在の主な活動テーマは「国際発信力強化」「知識共有・ピアサポート」「社会との成果共有」の3つで、代表的なイベントがいくつかありますが、一つは「リサーチ・ショウケース」です。これは外国語で自身の研究テーマについて簡潔に発表・質疑応答を行うもので、過去累計130人ほどが発表を行っています。もう一つ、「英文校閲ワークショップ」は、英語論文の執筆スキル向上を目的としたイベントで、参加者が互いに論文を発表し合い、改善点などを議論します。

歴史家ワークショップのイベントを重ねるごとに、研究者や学生たちの成長を実感します。例えばリサーチ・ショウケースは賞が設定されており、和やかな雰囲気ながら一定の緊張感もあります。そんな中で歴史研究を心から楽しんでいる研究者たちが切磋琢磨し、

よりよいものを生み出そうと真剣に取り組んでいる。そんな彼らの様子を見ていると、私自身もワクワクしてきます。

今後も歴史家ワークショップの活動を通じて、そういった歴史研究の楽しさや意義をさらに社会に広めていきたい。ぜひ、活動の現場にご参加いただき、歴史的に物事をとらえることの楽しさや大切さを実感いただけると嬉しいです。また、皆様からのご寄付を通じて若い歴史研究者たちが成長し、その輝きを増していく姿をご覧いただきたいと思っています。



インタビュー全文は東京大学基金WEBサイトにて公開しております ▶

コロナ禍の留学生。奨学金が大きな支えに

外国人留学生支援基金は、本学の外国人留学生に対し経済的支援を行うとともに、地域社会・本学教職員との交流や不測の事態への対処等により、本学の留学生交流の一層の促進を図ることを目的としています。

コロナ禍で、経済的に困窮する留学生は少なくありません。多様性 (Diversity)のあるインクルーシブ・キャンパスの実現を推進するため、本学での学修・研究のため日本へ入国する留学生に対し、待機施設を手配するなど、様々な対策や支援を実施しました。



寄付のご恩を忘れずに研究に取り組む

この度、東京大学基金奨学生として採用していただき、ありがとうございます。奨学金を受給することにより、研究活動と並行せざるを得なかったアルバイトの時間を軽減することができ、そのほか、自分の研究に必要な不可欠の書籍等を購入し、東京大学大学院教育学研究科教育行政学論叢に論文投稿もできました。寄付者の方々から心から感謝を申し上げます。

私は、日本とモンゴルの教科書制度に関する研究をしています。モンゴルのような人口密度と教育予算がともに低い国において、どのような教科書制度にすれば教科書の質を向上させることができるのかを、検討したく、研究を進めています。今後も皆様からのご恩を忘れずに、研究により一層取り組みたいと思います。誠にありがとうございました。

教育学研究科 研究生(留学時)

ゾリグト アズザヤさん(モンゴル出身)



コロナ禍での不安な日々。家族のような研究室と奨学金が支えに

コロナ時代の外国人留学生として、母国にいる家族に会えない孤独感やアルバイトが減ることで経済的に厳しくなる不安を感じる日々が多かったです。しかし、研究室の皆様が優しく接してくれたおかげで、大家族のような温かさを感じました。更に、今回は東京大学基金奨学生として採用され、生活面から大きなご支援をいただき、誠にありがとうございます。

私はマルチアイトップ分析を用いて、考古遺跡の発掘調査で見つかる古人骨の様々な元素の同位体比から個体の食性及び移動履歴の情報を復元する研究をしています。骨の分析から大人になってからの生活、歯のエナメル質の分析から子供の頃の生活を読み解くことで、数千年前のある個体がどのような人生を送ったのかをある程度知ることができます。

歴史を明らかにすることは、私たち人類の「いま」がどのように成り立っていたかを知り、未来へ向かうための土台だと考えています。私は古人骨の研究分野で活躍できる研究者を目指して、日々精進して参りたいと思います。最後になりますが、ご寄付をいただいた皆様に、重ねて深く御礼申し上げます。

新領域創成科学研究科 博士課程1年(留学時)

申 亜凡(シン アハン) さん(中国出身)

母校に寄付で恩返しを。まずは自分から



内永 ゆか子 様

香川県出身。東京都立白鷗高等学校、東京大学理学部物理学科を卒業し、日本IBM株式会社に入社。女性として初の取締役に就任した後、常務取締役、取締役専務執行役員などを歴任。2008年に同社を定年退職し、ベルリッツコーポレーション代表取締役会長兼社長兼CEOに就任。2013年に同社名誉会長を退任。2007年にNPO法人ジャパン・ウイメンズ・イノベティブ・ネットワーク (J-Win) を設立し、理事長に就任。2013年にはGlobalization Research Instituteの社長に就任。

〈インタビュー抜粋〉

役に立った“東大卒”の“金看板”。学ぶ環境づくりのため寄付を続けたい

現在、私は東大理学部の諮問委員を務めていて、委員会よく最近の学生の話をお聞きします。昔からそうなのですが、特に理系の学生は授業や研究が忙しくてなかなかアルバイトに時間を割くことができません。そんな状況で修士、博士まで進むとなると、親にも本人にも大きな金銭的負担がかかります。もちろん奨学金もありますが、長期間受け取れば返済が重くのしかかるケースもあります。

東大理学部は世界の論文引用ランキングでも高位置にあって、大学としてやはり素晴らしい存在です。東大のプレゼンスをさらに高めるためには、学生がお金の心配なく、やりたい勉強・研究を続けられる環境整備が必要です。そのためには外部からの寄付が欠かせません。例えばハーバード大学、国内でも慶應義塾大学などは、かなりの額の寄付を集めて学生を支援しています。東大にももっと寄

付を集めたい、そのためにまず自分が寄付をしようと思ったのです。

私が学生のころの東大の学費は、年間1万2000円、ひと月わずか1000円でした。学生だった当時、その学費の安さは「自分が試験に合格したから当然だ」と不遜にも思っていました。ですが社会の荒波を進む中で、“東大物理卒業”という“金看板”が何度も役に立ちました。これだけ大きなメリットを受けたのだから、東大卒のOB・OGは、大学に恩返しする義務があるのではないのでしょうか。私はこれからもできる限り毎年、寄付をしていきたいと思っています。

学生のみなさんには、今のうちに何でも経験してほしいと伝えたいですね。学生時代に経験して損することなんて何もありません。それから大学生活で得られる知識や人脈を大事にして、これから長く続いていく自分の人生を有意義なものにしてほしい。

特に女子学生は、パートナーなど誰かに頼って生きるのではなく、自分の人生は自分で決めてほしいと思います。あとは近い未来ではなく、30年先、40年先にどんな自分でありたいのかをしっかり考えること。私も75歳となり、一つのターニングポイントを迎えました。今までずっと走り続けてきましたが、それもここで一旦卒業と想っています。100年まで生きると想定すると、あと25年。どうやってさらに人生を謳歌していくか、じっくり考えていきたいと思っています。



インタビュー全文は東京大学基金WEBサイトにて公開しております▶

ダイバーシティは世界で勝つ手段。過去の成功にすぎる日本に警鐘

J-Winは、企業のダイバーシティ・マネジメントの促進と定着をサポートすることを目的として活動するNPO法人です。J-Win立ち上げのきっかけとなったのは、日本IBM勤務時代の経験です。IBMが赤字に陥っていた1993年、外部からルイス・ガースナーという人物が招かれ、CEOに就任。大がかりなリストラを進めるとともに、IBMのカルチャーの大改革に取り組みました。彼は「過去の成功体験にすぎている限り、どれだけリストラしても会社は変わらない。変わるためには、今まで会社の中心となっていたWASP(アングロ・サクソン系プロテスタントの白人)だけではなく、異なる価値観を持った人間を積極活用しなければならない」という考えのもと、ダイバーシティを推進しました。それをきっかけに、日本IBMで

も女性の管理職や役員が増えていったのです。

私はその取り組みを間近で見ている、構造的問題は日本もまったく同じだと思いました。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われていた時代の成功体験を懐かしがり、同一の価値観を持つ人たちが企業を運営する。それでは日本はいつまでもたっても変革できないと思ったのです。テクノロジーの進歩により、ビジネスモデルは急速に変化しています。その環境で勝ち抜くためには、会社という組織の在り方や文化を変えていかなければいけません。それは過去の成功体験にどっぷり浸かっている人たちだけではできない。

そもそも女性は人口の約半数を占め、優秀な人もたくさんいます。だからダイバーシティを進めるのであれば、

まず女性活用から取り組むのがいいと。逆に言えば、女性の活用がうまくできていないのに、外国人や価値観が異なる人の活用なんてできるわけがない。そういった意味で、女性活用はリトマス試験紙なのです。ダイバーシティの推進は、日本企業が国際競争力を付け変革を推し進めるための源になっていくはずですが、その礎をつくるべく、J-Winでは女性リーダーの育成プログラムなどを提供しています。これからも企業経営にも言える投資家への働きかけなどを通じて、ダイバーシティの推進に取り組んでいくつもりです。

※肩書・年齢等はインタビュー当時(2021年9月)のものです。

▶ 寄付者の皆様からのお言葉～ADD YOUR NAME～

2021年度も寄付者の皆様から温かいメッセージを多数頂戴しました。皆様のお声が東京大学の活動の励みになっています。



応援メッセージは東京大学基金WEBサイトにて公開しています。▶

国の将来を支えるのは、人であり、そのためには教育が重要だと思います。少しでもそのお役に立てればと思います。
〈寄付目的:東京大学に一任する〉

研究が成功して、ガン患者さんの希望になることを願っております。無理はなさらず、がんばってください!応援してます!
〈がん予防プロジェクト〉

「一人でも多くの、困難に直面している学生や研究者を援助する」素晴らしいプロジェクトに賛同します。そして、こうした支援活動が当たり前に行われる世界になってほしいです。
〈東京大学緊急人道支援基金〉

うちの子供は高校生です。一般的には少し生きにくい個性の持ち主です。息子と同じ様な子供達の未来の為に少しでも支援出来たらと思いました。頑張ってください。
〈LEARN基金〉

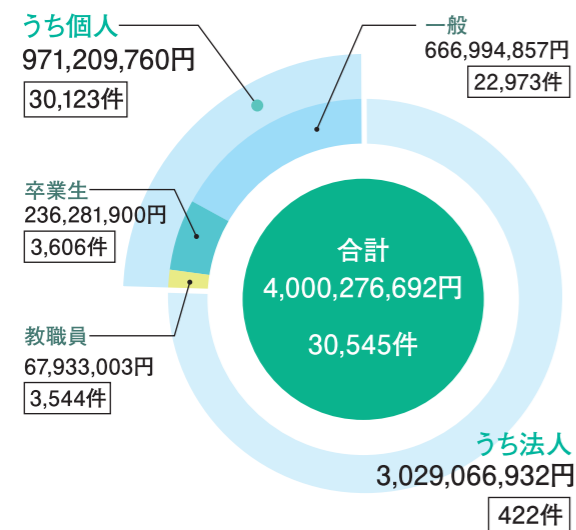
財務報告（2021年度）

▶収支報告

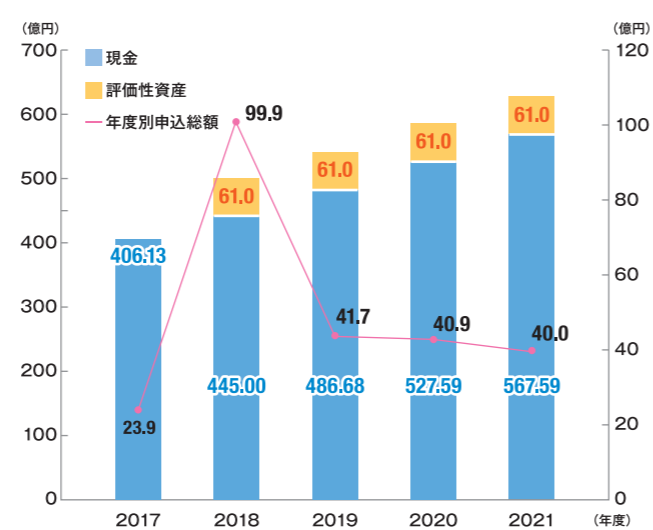
収入の部	非目的指定寄付金	396,250,817 円
	目的指定寄付金	3,986,337,058 円
	目的指定寄付金(評価性資産)	0 円
収入の部 計		4,382,587,875 円
※入金額のため申込額とは異なります。		
支出の部	目的指定プロジェクト活動資金	3,513,166,920 円
	大学事業推進経費	135,000,000 円
	渉外活動支援経費	150,965,948 円
支出の部 計		3,799,132,868 円
寄付株式等の運用益・評価額		-1,617,889,507 円
差引収支額		-1,034,434,500 円
前期繰越基金残高		18,988,659,851 円
期末基金残高		17,954,225,351 円

▶寄付申込実績

2021年度



累計申込総額と年度別申込総額の推移



▶東京大学基金期末残高の状況

東京大学基金	17,954,225,351 円
うち非目的指定寄付基金	8,516,736,371 円

▶東京大学基金の運用状況

東京大学基金による運用益*	531,000,000 円
※10万円以下は切り捨て。	

※東京大学基金では、2018年11月より策定したポートフォリオに基づく分散投資運用を行っています。2021年度は4.27%の収益率となり、運用益は約5.31億円とプラスになりました。今後も皆様からのご寄付をより適切に運用するよう努力してまいります。

▶東京大学基金の活用状況

東京大学基金の運用益	東京大学基金は適切に運用管理しており、生じた運用益については、以下の用途に使用しています。 ①奨学金給付制度の充実、②教育・研究の支援、③キャンパス環境の整備
目的指定寄付基金	目的指定の寄付につきましては、該当プロジェクトの活動資金として活用しています。プロジェクトの特性により、進行に合わせ計画的に使用するものや、一定金額に達するまで留保しているものなどがあります。
非目的指定寄付基金	「東京大学基金」のコアであり、運用原資として活用する他、その一部を大学の重要な事業に充て、寄付者の皆様にその成果をお示しできるような活用してまいります。*

※東京大学基金は、従来より非目的指定寄付基金を積み上げ、その運用益を活用してまいりました。しかしながら、基金の更なる充実を図るには、基金本体を活用し、その成果を寄付者の皆様に目に見える形で提供することも重要であると考え、基金本体の一部を渉外活動等に活用させていただいております。2021年度は全学事業（IBMQゲート型汎用量子コンピューター）と渉外活動経費へ充当し活用いたしました。今後も、更なる基金の充実を目指しつつ、寄付者の皆様のご期待に応える活用方法を検討してまいります。

▶(参考)東京大学支援のため設けられているその他の基金

信託基金(米国)	5,000,000 米ドル	カブリIPMU基金	12,500,000 米ドル
スルタン・カブース 中東研究寄付講座用基金	2,500,000 オマーンリヤル (1オマーンリヤル=316.03円 2022.3.31現在)	古賀信介学術財団基金	400,000,000 円

◎協定等により寄付者が基金を設置し、自ら運用を行い、その運用益を定期的に東京大学基金にご寄付いただくものです。

支援事業一覧(2021年度)

▶ キャンパス環境の整備

(単位:円)

支援事業名	2021年度申込額	累計申込額	主な使途
UTokyo 女性活躍支援基金	645,000	16,234,000	女子学生・女性研究者支援
東大病院メディカルタウン基金	3,259,352	50,255,191	最先端医療拠点の整備
Life in Green プロジェクト(小石川&日光植物園)	23,455,971	594,456,955	研究者雇用・栽培環境整備
「東京大学の森」育成資金	1,804,490	23,893,490	演習林管理

(その他使途指定を受けた寄付)本郷テックガレージ支援 他

▶ 教育・研究の支援

(単位:円)

支援事業名	2021年度申込額	累計申込額	主な使途
未来社会協創(FSI)基金	1,458,273,186	7,816,487,186	FSI事業推進
未来構想ビヨンド2020プロジェクト	24,000	691,000	未来協創事業推進
新型コロナウイルス感染症緊急対策基金	11,441,136	241,985,244	COVID-19の医療対策
プリンストン大学との戦略的提携基金	10,020,000	92,521,000	交流活動支援
修学支援事業基金	41,346,963	116,417,416	経済的困難のある学生支援
UT7(次世代生命概念創出研究グループ)基金	266,000	10,981,003	研究活動支援
現代日本研究センター運営支援基金	530,000	1,246,002	研究者交流活動支援
東京大学附属図書館支援プロジェクト	18,772,077	25,541,077	学習環境整備・資料のデジタル化
明治新聞雑誌文庫	3,320,000	22,486,000	資料保存事業・設備整備
スキルズ胃癌、膵癌、大腸癌に対する腹腔内化学療法の研究開発	10,728,598	43,451,375	臨床研究活動
がん予防プロジェクト	5,944,000	22,654,000	臨床研究活動
グローバルシグニフィカンスセンター基金	1,100,000	19,839,000	外国人研究者招聘
宮崎徹教授の猫の腎臓病治療薬研究	276,548,991	276,548,991	研究活動推進
量子子コンピューター研究支援基金	102,945,000	202,320,000	若手研究者支援・設備改修
国際工学人材育成基金	0	11,956,000	工学系学生国際交流支援
藤田ナノサイエンス基金	201,000	711,000	研究活動推進
航空宇宙研究教育支援基金	1,341,000	29,380,000	学生・若手研究者海外留学支援
新社会を創造する化学人材育成基金	62,645,659	65,275,659	工学部5号館51〜57号講義室のICT化
南鳥島レアアース泥を開発して日本の未来を拓く	3,267,598	9,766,598	南鳥島における調査航海
機械系研究教育支援基金 NEW	5,151,000	5,151,000	教育研究環境整備
グッゲンハイム美術館ビルバオ展示支援基金 NEW	1,546,000	1,546,000	展示作品の製作・展示会出展準備
東大土木・社会基盤研究教育環境整備基金 NEW	1,620,000	1,620,000	教育研究環境整備
歴史的木造建築の工学研究国際拠点形成基金 NEW	420,000	420,000	研究推進・人材育成
理学系研究科・理学部基金	3,197,000	44,879,750	奨学金・国際化事業・環境整備
地球惑星科学の研究教育支援基金	1,486,000	6,762,000	セミナー開催・学生研究支援
マリン・フロンティア・サイエンス・プロジェクト	546,000	83,893,306	三崎臨海実験所活動支援
知の物理学研究センター支援基金	484,000	2,547,000	若手研究者支援
「スーパー酵母2020」プロジェクト	724,000	3,389,000	研究活動推進
One Earth Guardians(地球学)育成プログラム支援基金	3,432,909	39,873,078	セミナー開催・実学研究実施
東京大学動物医療センター140周年記念基金	12,285,802	23,643,638	診療環境整備・若手獣医師教育
経済学図書館・経済学部資料室	100,000	455,000	イベント開催・資料デジタル化
歴史家ワークショップ支援基金 NEW	4,523,000	4,523,000	若手歴史研究者の育成
経済学部資料室支援基金 NEW	237,000	237,000	アーキスト(文書管理・保存の専門家)の育成
子育て保育研究支援基金	553,100	7,139,186	保育教育研究支援
教育学部・教育学研究科教育研究創発基金「教育学部創立70周年記念基金」	60,000	2,900,000	教育学部・研究科活動支援
薬学部学生・大学院生との研究再開を支援する基金 NEW	7,670,000	7,670,000	研究環境の復旧
数理学研究科基金	2,150,358	50,344,074	就学支援・国際交流・社会貢献
新領域創成科学研究科基金	1,060,000	2,220,000	研究推進・人材育成
メダカ自然集団の保全事業支援基金	2,084,601	3,071,601	メダカの保全活動
公共政策大学院基金	340,000	710,000	学生支援・教育環境整備
未来医療開発基金(医科学研究所)	19,022,000	35,810,500	研究プロジェクト支援
近未来ワクチンデザインプロジェクト NEW	2,021,028	2,021,028	ワクチンデザイン人材の育成
ミュオグラフィ リベラルアーツ基金	637,000	2,218,000	古墳透視実験・研究成果展示会
東大アジア研究叢書基金 NEW	1,620,000	1,620,000	英文図書刊行
チタンの夢とロマン基金	438,000	3,644,000	若手研究者支援
貴金属研究・若手育成支援基金	3,060,000	6,657,000	若手研究者支援
時代を切り拓くSTEAM創造性教育基金 NEW	53,000	53,000	教材開発・ワークショップ・イベント開催
史料編纂所基金	6,518,000	15,444,500	研究環境整備
宇宙線研究所若手支援基金	16,058,033	141,105,696	若手研究者雇用・待遇改善
大型低温重力波望遠鏡(KAGRA)プロジェクト	2,022,000	68,528,000	研究施設整備
バイオロギング支援基金	4,090,601	5,376,602	研究機材開発・若手研究者支援
高度国際海洋人材育成基金 NEW	2,022,888	2,022,888	フィールドワーク・インターンシップ実施
異才発掘プロジェクトROCKET基金	6,726,058	18,070,458	子ども向けプログラムの実施
LEARN基金 NEW	178,200	178,200	子ども向けプログラムの実施
障害のある学生や研究者の活躍応援基金	2,165,801	5,858,801	障害のある学生や研究者が活躍できる環境整備
日本発インキュベーション:カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)支援	69,824,172	716,105,195	教育研究環境整備
ニューロインテリジェンス国際研究機構(IRCN)基金:「ヒトの知性」はどのように生じるか?	8,208,777	13,523,777	研究活動支援
未来ビジョン研究センター	5,000	25,759,000	研究環境整備
東京カレッジ支援基金 NEW	56,000	56,000	研究環境整備

(その他使途指定を受けた寄付)アルツハイマー病研究支援、潮田記念基金、AI・IoT・データサイエンスの応用のため、産学協創推進本部における大学発スタートアップの振興
NEW、セッション 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム、体験活動支援基金(FLY Program他)、東アジア学連携研究プログラム支援、FoundXの取組支援、LIXIL Ushioda East Asian Humanities Initiative 他

▶ 奨学金制度の充実

(単位:円)

支援事業名	2021年度申込額	累計申込額	主な使途
さつき会奨学金基金	58,619,100	460,173,969	女子学部生奨学金
修学支援事業基金	41,346,963	116,417,416	経済的困難のある学生支援
リーダー博士人材育成基金	2,300,000	293,592,000	工学系博士課程奨学・研究支援
東京大学グローバルリーダー育成プログラム/東大GEiIL基金	88,635,000	736,105,000	海外プログラム参加奨学金
東大生海外体験プロジェクト	82,000	115,323,000	在校生海外派遣事業支援
GoGlobal奨学金	5,000	131,974,622	海外派遣学生への経済的支援
外国人留学生支援基金	9,210,500	359,931,603	外国人留学生支援
PEAK企業奨学金 / PEAK奨学金制度	1,076,834	3,809,834	PEAK活動支援

(その他使途指定を受けた寄付)アイングループ・スカラシップ、アントレプレナー道場支援、イオン スカラシップ、ヴィーナ・エナジー奨学金 NEW、大坪修鉄門フェローシップ、学部理系女子学生支援、京論壇活動支援、工学系研究科(技術経営戦略専攻)学生の海外研修事業、古賀信介奨学金基金、東京大学エンデバー・ユナイテッド・ホールディングス奨学金、東京大学女子学生奨学金(大学院修士課程)、東京大学トヨタ・ドワンゴ高度人工知能人材奨学金、東京大学光イノベーション基金、長島雅則奨学金基金、Fung Scholars Programme、UTEC東京大学奨学金 NEW、東京大学大学院情報理工学系研究科留学生支援民間奨学金「株式会社アイエム」、川野幸夫基金 他

▶ 東大スポーツ全般・課外活動(運動部・文化部)の支援

(単位:円)

支援事業名	2021年度申込額	累計申込額	主な使途
東大スポーツ振興基金(スポーツ振興全体)	313,000	14,902,824	御殿下記念館改修工事
御殿下記念館整備支援基金	30,000	18,210,000	男子シャワー室修理
戸田寮支援基金	32,000	1,296,776	施設整備予定
山中寮内藤セミナーハウス支援基金	10,000	2,775,000	維持・運営費予定
iGEM UTokyo NEW	843,000	843,000	大会参加費
アス蹴球部(サッカー部)支援基金	50,000	80,205,869	練習環境整備
WARRIORS支援基金(アメフト部)	21,480,000	121,893,123	チームウェア・練習用品購入
応援部支援基金	1,208,000	7,497,618	七大戦遠征費
空手部支援基金	860,000	21,035,000	選手登録費・遠征費・備品購入
剣道部活動支援基金	0	4,800,000	エアコン新設・防具置き購入
硬式野球部支援基金	12,752,760	253,895,914	更衣室改修・用具購入
自転車部支援基金	60,000	1,302,000	遠征費・機材購入予定
自動車部活動支援基金	406,000	3,502,000	フロントガラス等購入
柔道部施設整備支援基金	50,000	9,211,082	部誌「赤門柔道」発行
準硬式野球部支援基金	310,000	3,210,000	リーグ戦登録費・遠征費予定
少林寺拳法部支援基金	0	6,061,000	部室改修・七徳堂壁面鏡設置
スキー部活動支援・留学生スキー講習会支援基金	22,000	5,142,000	アルペン競技用ボール購入
東京大学漕艇部支援基金	4,032,730	41,273,121	艇備品購入
総務部支援基金	145,000	1,421,000	遠征費予定
体操部支援基金	145,000	2,444,000	練習環境整備
卓球部活動支援基金	10,000	840,000	練習球購入
庭球部支援基金	1,740,000	15,131,876	人工芝補修
軟式庭球部支援基金	800,000	9,967,000	駒場テニスコートナイター設備設置
軟式野球部活動支援基金	110,000	3,585,587	用具購入
バドミントン部活動支援基金	70,000	520,000	シャトル等練習用具購入予定
バレーボール部支援基金	1,160,000	3,890,000	検定球購入予定
ボディビル アンド ウェイトリフティング部	320,000	15,205,000	練習環境整備
ホッケー部支援基金	4,632,000	46,538,662	駒場第二グラウンド整備予定
洋弓部支援基金	1,619,000	7,239,000	備品購入・競技力向上の環境整備
ヨット部支援基金	5,270,000	13,011,942	レース用セール購入・ヨット整備
ラグビー部支援基金	21,433,000	63,192,028	駒場ラグビー場整備
ラクロス部支援基金	136,000	2,452,941	駒場第二グラウンド整備予定
陸上運動部支援基金	265,000	78,336,401	遠征費・用具購入
RoboTech支援基金	1,240,000	9,231,000	ロボット・フィールド製作
音楽部管弦楽団活動支援基金	323,000	6,601,000	楽器購入・デジタルアークイブ作成

▶ 卒業生ネットワーク

(単位:円)

支援事業名	2021年度申込額	累計申込額	主な使途
東京大学校友会支援基金	11,327,076	60,065,112	在学生支援
東大EMP基金	1,100,000	19,865,714	EMP事業支援

▶ 緊急事態対応・災害復興

(単位:円)

支援事業名	2021年度申込額	累計申込額	主な使途
東京大学緊急人道支援基金 NEW	2,357,003	2,357,003	教育・研究の継続が困難な学生や研究者の支援
沿岸センター活動支援プロジェクト(大気海洋研究所)	254,000	22,854,478	沿岸センター復興・活動支援

▶ 寄付講座・寄付研究部門(東京大学基金経由のご寄付分)

(その他使途指定を受けた寄付)アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門、運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座、「革新的学びの創造学」寄付講座、「革新分子技術」総括寄付講座、「QualityとHealthを基盤におくサービスエクセレンス社会システム工学」総括寄付講座、「国際建築教育拠点講座(SEKISUI HOUSE-KUMA LAB.)」総括寄付講座、サービスVR、資本市場と公共政策、次世代金融支援システム講座、持続可能性志向インターナショナル寄付研究部門 NEW、持続可能な自然再生科学研究寄付講座、醸造微生物学(キャッコーマン)、スルタン・カブース・グローバル中東研究講座、先端物流科学寄付講座、「太陽光を機軸とした持続可能グローバルエネルギーシステム」総括寄付講座、「知の物理学研究」寄付講座、データサイエンス社会実装寄付部門、光量子情報処理学、微生物潜在酵素(天野エンザイム)寄付講座、「プラチナ社会」総括寄付講座、ブロックチェーンイノベーション、骨・軟骨再生医療講座、臨床試験データ管理学寄付講座、DNP学術電子コンテンツ研究寄付講座、OSG国際防疫獣医学 NEW 他